



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: npb.jp

ココロ動く、未来へ。  
スカパー!

2020年10月14日  
セントラル野球連盟  
パシフィック野球連盟  
スカパーJSAT株式会社

## 9月度「スカパー！サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の9月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金30万円が贈られます。

### ～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～

**吉川 尚輝**  
(読売ジャイアンツ)  
初受賞

吉川尚選手は、9月22日(火)東京ドームで行われた対広島東洋カープ14回戦、9回表同点に追いつかれた直後、9回裏2死3塁の場面で右前打を放ち、緊迫した接戦を制した。

読売・菅野投手の開幕12連勝をかけた試合は、8回が終わり4対3と読売が優勢。このままリードを守りたい読売は、守護神デラロサ投手に全てを託した。しかし9回表1死1塁の場面、広島・松山選手が左前打を放ち、走者の曾根選手が一気にホームへ生還。菅野投手の開幕12連勝は次回へ持ち越しとなった。

同点で迎えた9回裏2死1塁、バッターは9月1日(火)東京ドームでもサヨナラ打を放った吉川尚選手。何とかチャンスメイクを図りたい読売は、広島・フランスア投手の牽制悪送球により2死3塁の場面を迎える。願ってもないチャンスを手にした吉川尚選手は、カウント1-1からの3球目を捉え、打球はライト前へ。今月2度目となる値千金のサヨナラ打となった。読売からのスカパー！サヨナラ賞受賞は、2019年8月度の石川選手以来となり、吉川尚選手は初の受賞となった。

### ～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～

**茂木 栄五郎**  
(東北楽天ゴールデンイーグルス)  
初受賞

9月11日(金)楽天生命パークで行われた対北海道日本ハムファイターズ16回戦、1点ビハインドの延長10回裏、1死2塁の場面で茂木選手は右翼席へ飛び込む逆転サヨナラ本塁打を放ち、チームを今季初のサヨナラ勝利へ導いた。

東北楽天は初回から4安打を浴び2点を先制されるも、直後に1点を返し、すぐさま点差を縮める。4回には、茂木選手の三塁打でチャンスを作ると、小深田選手のタイムリーで勝ち越しに成功。そのまま逃げ切りを狙うも、9回に相手の執念で同点とされ、3対3で試合は延長戦に突入。

降雨による31分間の中断を挟んでスタートした延長戦は、10回表に2つの守備のミスで1点を献上してしまう。後がなくなった10回裏、1死2塁の場面で打席には茂木選手。カウント2-2からの5球目をライトスタンドへ放り込んで、劇的な逆転サヨナラ勝利を遂げた。負ければ今季初の借金生活となるチームを窮地から劇的な一打で救った。

2018年8月12日以来自身2本目のサヨナラ本塁打は、球団史上初の延長戦での逆転サヨナラ弾となった。スカパー！サヨナラ賞は初受賞となる。



月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打等を放った選手に贈られる賞として2012年に制定されました。スカパー！は、2006年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の1球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと2009年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打等を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。



(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー！サヨナラ賞】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	中村 紀洋 (DeNA)	田中 賢介 (日本ハム)
5月度	森野 将彦 (中日)	A.バルディリス (オリックス)
6月度	和田 一浩 (中日)	M.ホフパワー (日本ハム)
7月度	石原 慶幸 (広島)	楢田 慎太郎 (楽天)
8月度	阿部 慎之助 (巨人)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
9月度	新井 良太 (阪神)	松井 稼頭央 (楽天)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
5月度	畠山 和洋 (ヤクルト)	浅村 栄斗 (西武)
6月度	M. マートン (阪神)	高橋 信二 (オリックス)
7月度	丸 佳浩 (広島)	嶋 基宏 (楽天)
8月度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)
9月度	石原 慶幸 (広島)	片岡 治大 (西武)

2014年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	B.エルドレッド (広島)	A.ジョーンズ (楽天)
5月度	梵 英心 (広島)	加藤 翔平 (ロッテ)
6月度	嶺井 博希 (DeNA)	今宮 健太 (ソフトバンク)
7月度	福留 孝介 (阪神)	斉藤 彰吾 (西武)
8月度	J. ロペス (巨人)	田村 龍弘 (ロッテ)
9月度	T. ブランコ (DeNA)	松井 稼頭央 (楽天)

2015年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	平田 良介 (中日)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
5月度	福留 孝介 (阪神)	中川 大志 (楽天)
6月度	井端 弘和 (巨人)	吉田 裕太 (ロッテ)
7月度	藤井 淳志 (中日)	中村 剛也 (西武)
8月度	坂本 勇人 (巨人)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
9月度	中村 悠平 (ヤクルト)	B. レアード (日本ハム)

2016年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	杉山 翔大 (中日)	吉村 裕基 (ソフトバンク)
5月度	坂本 勇人 (巨人)	井口 資仁 (ロッテ)
6月度	鈴木 誠也 (広島)	B. レアード (日本ハム)
7月度	筒香 嘉智 (DeNA)	B. レアード (日本ハム)
8月度	脇谷 亮太 (巨人)	森 友哉 (西武)
9月度	ギャレット (巨人)	細谷 圭 (ロッテ)

2017年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	鶴久森 淳志 (ヤクルト)	聖澤 諒 (楽天)
5月度	荒木 貴裕 (ヤクルト)	駿太 (オリックス)
6月度	亀井 善行 (巨人)	福田 秀平 (ソフトバンク)
7月度	大松 尚逸 (ヤクルト)	J. アマダー (楽天)
8月度	宮崎 敏郎 (DeNA)	栗山 巧 (西武)
9、10月度	安部 友裕 (広島)	A. デスパイネ (ソフトバンク)



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: npb.jp



(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー！サヨナラ賞】

2018年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	下水流 昂 (広島)	森 友哉 (西武)
5月度	山下 幸輝 (DeNA)	清田 育宏 (ロッテ)
6月度	山田 哲人 (ヤクルト)	上林 誠知 (ソフトバンク)
7月度	下水流 昂 (広島)	山下 斐紹 (楽天)
8月度	鈴木 誠也 (広島)	Y.グラシアル (ソフトバンク)
9、10月度	上田 剛史 (ヤクルト)	中島 宏之 (オリックス)

2019年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	青木 宣親 (ヤクルト)	中田 翔 (日本ハム)
5月度	高山 俊 (阪神)	辰己 涼介 (楽天)
6月度	原口 文仁 (阪神)	鈴木 大地 (ロッテ)
7月度	Y.ソラーテ (阪神)	中村 剛也 (西武)
8月度	石川 慎吾 (巨人)	清田 育宏 (ロッテ)
9、10月度	N. ソト (DeNA)	E. メヒア (西武)

2020年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
6、7月度	西浦 直亨 (ヤクルト)	A. ロドリゲス (オリックス)
8月度	上本 崇司 (広島)	山川 穂高 (西武)
9月度	吉川 尚輝 (巨人)	茂木 栄五郎 (楽天)
10、11月度		

(参考)過去の年間大賞 受賞選手

【スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (巨人)	井口 資仁 (ロッテ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島)	小久保 裕紀 (ソフトバンク)
2011年度	長野 久義 (巨人)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
2012年度	和田 一浩 (中日)	中田 翔 (日本ハム)
2013年度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)
2014年度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
2015年度	雄平 (ヤクルト)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
2016年度	鈴木 誠也 (広島)	吉村 裕基 (ソフトバンク)
2017年度	宮崎 敏郎 (DeNA)	栗山 巧 (西武)
2018年度	下水流 昂 (広島)	森 友哉 (西武)
2019年度	高山 俊 (阪神)	鈴木 大地 (ロッテ)

